

## 授業前後における柔道に対するイメージの変化

### —工業高等専門学校を対象にして—

川内谷 一志<sup>1</sup>・佐野 博昭<sup>2</sup>・岡村 さやか<sup>3</sup>・射手矢 岬<sup>3</sup>

<sup>1</sup>一般科理系, <sup>2</sup>都市・環境工学科, <sup>3</sup>東京学芸大学

高専生の授業前後の柔道に対するイメージの変化をみるために質問紙を用いてアンケート調査を行った。得られた結果より、授業後に8つの質問項目中男子7項目、女子6項目において有意な変化がみられた。男女ともに柔道の授業を経験することによって、「楽しい」「面白い」と柔道に好感を持つ者が増え、「痛い」「怖い」と恐怖を感じる者が減った。「激しい」の項目には有意差がみられず、柔道の授業経験後も激しいというイメージは変化していなかった。

**キーワード：**柔道, 授業, イメージ, アンケート調査

#### 1. はじめに

日本の伝統文化の一つとして位置づけられる武道が、2012年度から中学校の体育において必修化された。学習指導要領では、武道を通して伝統文化を理解し、相手を尊重する態度を養うことなどが期待されている。

これまで柔道に対するイメージについて調査した研究をみよ。尾形(2009)は、小学生を対象にアンケート調査を行った。「柔道の授業は楽しかったか」の質問に対して85%の児童が「楽しかった」「大変楽しかった」と答えたと報告している。これは、初めは恐怖心や難しそうだというイメージをもって敬遠していた児童も、いざ柔道に取り組んでみると、発達段階を踏まえた動きや技、柔道の特性を考えたストレッチなどを楽しみながらできるようになった満足感が得られたものと考察している。

尾形ら(1978)は、中学生を対象にアンケート調査を行った。中学生は、柔道は地味で、非近代的で、苦しく、怪我の多いスポーツであると捉えている傾向にあるが、柔道の身体面、精神面に及ぼす好影響を否定する者はそれほど多くなく、身体面では特に筋力、柔軟性、持久力の発達に効果があり、また精神面では、根気強さ、礼儀正しさ、忍耐力の養成に効果があると認識している者が多い傾向にあると報告している。

生田ら(2003)は、高校生を対象に柔道授業を20単位時間行い、授業前後にアンケート調査を行った。授業を体験して「おもしろさがある」「心身の鍛錬に効果がある」といった肯定的イメージが増したと報告しており、これは授業の中で生徒はまさにスポーツとしての柔道のおもしろ

ろさを味わいながら、武道としての精神的価値をも感じているのではないかと考察している。

石川ら(2011)は、大学生を対象に柔道授業を年間30回行い、授業期間中にアンケート調査を行った。彼らは柔道に対して「楽しい」「面白い」「親しみやすい」といったイメージが増したと報告しており、これは授業回数を重ねていく中で、多くの相手と関わり、練習をして技を学習したことにより苦痛因子が低減し、一方で、伝統因子には差がみられなかったと報告した。

これは実際に柔道を体験したことがない学生でも、知識として形成された伝統精神イメージをもともと強く抱いており、授業で実際に柔道を学ぶ体験を通して、大きく変化することがなかったと考察している。

以上のことから、柔道のイメージは授業を経験することで、おもしろい、心身の発達に役立つなどの良いイメージが増すが、反面暗い、苦しいなどの悪いイメージもあることがわかる。

そこで、本研究は、上述した研究対象とは異なる工業高等専門学校(16~20歳)の学生を対象に、授業前後の柔道に対するイメージをアンケート調査により明らかにすることを目的とした。

#### 2. 方法

##### (1) 対象

調査の対象は、柔道の授業を受講した学生747名とした。表-1は、調査対象者を示す。内訳は男子645名、女子は

表-1 調査対象者

性別	学科				合計
	機械工学科	電気電子工学科	情報工学科	都市・環境工学科	
男子	180	178	143	144	645
女子	3	9	43	47	102
合計	183	187	186	191	747

表-2 柔道の授業内容

学年	時間	授業内容
1年生	1時間目	オリエンテーション
	2時間目	礼法, 柔道衣の着方, 受け身 (後ろ受け身と横受け身)
	3時間目	受身 (前回り受け身), 抑え技 (袈裟固め)
	4時間目	抑え技 (横四方固め, 上四方固め) / 立ち技 (膝車)
2年生	5時間目	抑え技の復習/立技 (大腰, 大外刈り)
	6時間目	抑え技の自由練習 (1分×3本) / 立技の復習
	7時間目	抑え技の自由練習/立技の復習
	8時間目	抑え技の自由練習/立技自由練習 (1分30秒×3本)
3年生	9時間目	抑え技の自由練習/立技自由練習 (1分30秒×3本)
	10時間目	抑え技の自由練習/立技自由練習 (1分30秒×3本)
	11時間目	抑え技の自由練習/立技自由練習 (1分30秒×3本)

102名で、各学科の人数は、機械工学科男子180名、女子3名、電気電子工学科男子178名、女子9名、情報工学科男子143名、女子43名、都市・環境工学科男子144名、女子47名であった。

(2) アンケート調査項目と手順

調査項目は、柔道に対するイメージについて、以下の8項目 (1. 柔道は危険なスポーツと思う, 柔道は怖いスポーツと思う, 3. 柔道は痛いスポーツと思う, 4. 柔道は怪我が多いスポーツと思う, 5. 柔道は苦しいスポーツと思う, 6. 柔道は激しいスポーツと思う, 7. 柔道は楽しいスポーツと思う, 8. 柔道は面白いスポーツと思う) とした。

それぞれの項目の応答は5段階評定尺度 (1 思う, 2 まあ思う, 3 どちらでもない, 4 あまり思わない, 5 思わない) で回答させた。

表-2は、柔道の授業内容を示す。1コマ90分授業を1~3年次までに合計11コマ実施する。前期に実施するのは、1年生は1~4時間目まで、2年生は5~8時目まで、3年生は9~12時間目までであった。前期終了時にアンケート調査を行った。また4, 5年次生は過去の授業をふり返りアンケート調査に回答した。

アンケート調査は2012年度の前期柔道授業終了後に受講生に対して行った。

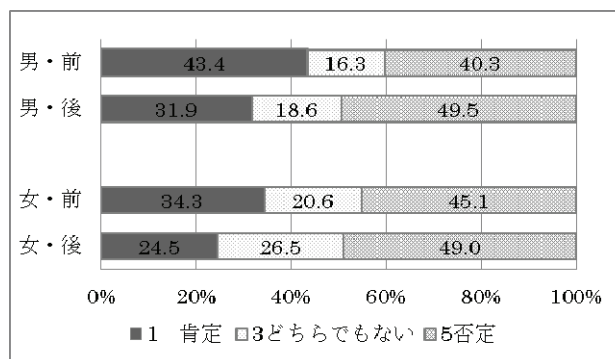


図-1 柔道は危険

3. 結果

(1) 柔道のイメージについての回答

図-1は、「柔道は危険なスポーツと思う」についての回答の割合を示す。男子は授業前に危険であると感じている者が43.4%、危険でないと感じている者が40.3%であったが、授業後には危険と感じている者が31.9%に減り、危険でないと感じる者が49.5%に増えた。女子においても授業前に危険であると感じている者が34.3%、危険でないと感じている者が45.1%であったが、授業後には危険と感じている者が24.5%に減り、危険でないと感じている者が49.0%に増えた。

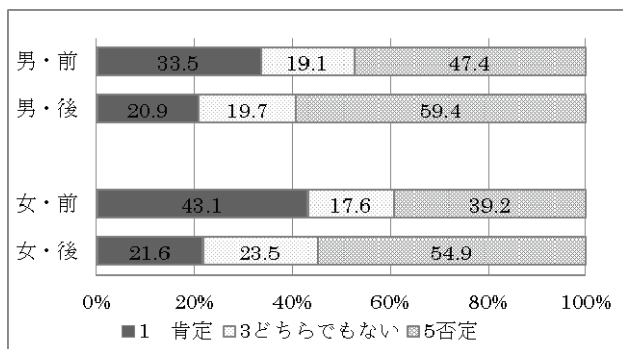


図-2 柔道は怖い

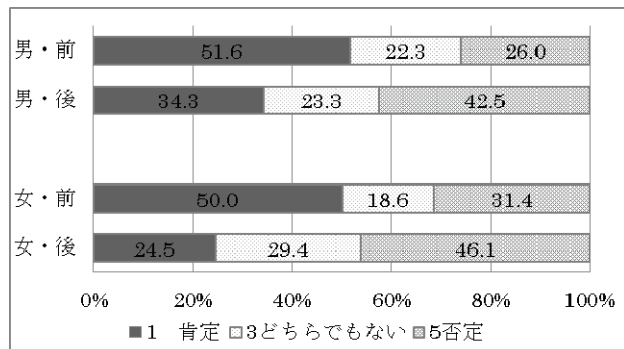


図-4 柔道は怪我が多い

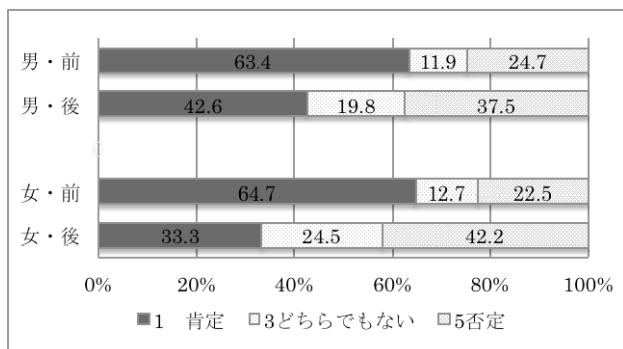


図-3 柔道は痛い

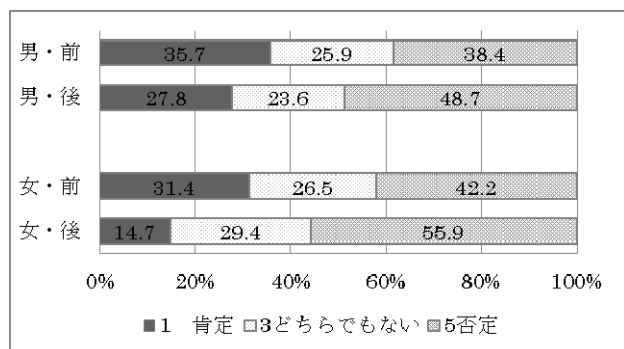


図-5 柔道は苦しい

図-2は、「柔道は怖いスポーツと思う」についての回答の割合を示す。男子は授業前に怖いと感じている者が33.5%、怖いと感じている者が47.4%であったが、授業後には怖いと感じている者が20.9%に減り、怖いと感じていない者は59.4%に増えた。女子においても授業前に怖いと感じている者が43.1%、怖くないと感じている者が39.2%であったが授業後には怖いと感じている者が21.6%に減り、怖いと感じていないものは54.9%に増えた。

図-3は、「柔道は痛いスポーツと思う」についての回答の割合を示す。男子は授業前に痛いと感じている者が63.4%、痛くないと感じている者が24.7%であったが、授業後には痛いと感じている者は42.6%に減り、痛くないと感じている者は37.5%に増えた。女子においても授業前に痛いと感じている者が64.7%、痛くないと感じている者が22.5%であったが、授業後には痛いと感じている者は33.3%減り、痛くないと感じている者は42.2%に増えた。

図-4は、「柔道は怪我が多いスポーツと思う」について回答の割合を示す。男子は授業前に怪我が多いと感じている者が51.6%、怪我が多くないと感じている者が26.0%であったが、授業後には怪我が多いと感じている者は34.3%に減り、怪我が多くないと感じている者が42.5%に増えた。女子においても授業前に怪我が多いと感じている者は50.0%、怪我が多くないと感じている者が31.4%であったが、授業後には怪我が多いと感じている者は24.5%に減り、怪我が多くないと感じている者が46.1%に増えた。

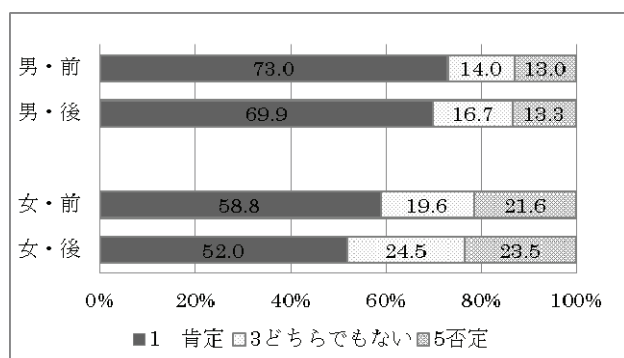


図-6 柔道は激しい

図-5は、「柔道は苦しいスポーツと思う」についての回答の割合を示す。男子は授業前に苦しいと感じている者が35.7%、苦しくないと感じている者が38.4%であったが、授業後には苦しいと感じている者は27.8%に減り、苦しくないと感じている者が48.7%に増えた。女子においても授業前に苦しいと感じている者が31.4%、苦しくないと感じている者が42.2%であったが、授業後には苦しいと感じている者は14.7%に減り、苦しくないと感じている者が55.9%に増えた。

図-6は、「柔道は激しいスポーツと思う」についての回答の割合を示す。男子は授業前に激しいと感じている者が73.0%、激しくないと感じている者が13.0%であったが、授業後には激しいと感じている者は69.9%に減り、激しく

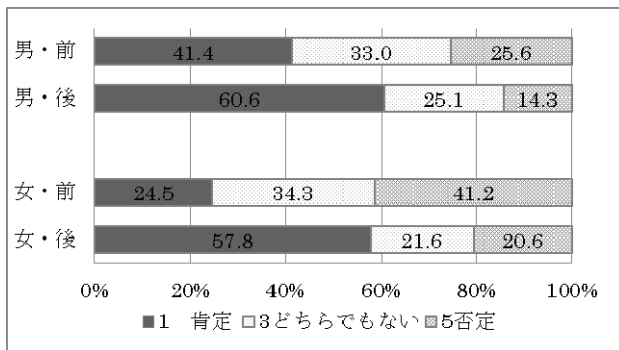


図-7 柔道は楽しい

ないと感じている者は13.3%に増えた。女子は授業前に楽しいと感じている者が58.8%、楽しくないと感じている者が21.6%であったが、授業後には楽しいと感じている者は52.0%に減り、楽しくないと感じている者は23.5%に増えた。

図-7は、「柔道は楽しいスポーツと思う」についての回答の割合を示す。男子は授業前楽しいと感じている者が41.4%、楽しくないと感じている者が、25.6%であったが、授業後に楽しいと感じている者は60.6%に増え、楽しくないと感じている者は14.3%に減った。女子は授業前に楽しいと感じている者が24.5%、楽しくないと感じている者が、41.2%であったが、授業後に楽しいと感じている者は57.8%に増え、楽しくないと感じている者は20.6%に減った。

図-8は、「柔道は面白いスポーツと思う」についての回答の割合を示す。男子は授業前面白いと感じている者が42.9%、面白くないと感じている者が25.0%であったが、授業後に面白く感じている者は60.5%に増え、面白くないと感じている者は14.1%に減った。女子は授業前面白く感じている者が27.5%、面白くないと感じている者が37.3%であったが、授業後に面白く感じている者は52.9%に増え、面白くないと感じている者は21.6%に減った。

## (2) 授業前後のイメージの比較

表-3に授業前後の柔道イメージについての質問に対する回答を得点化し、その平均値と標準偏差を示した。授業前後の得点に差があるかを比較するためにt検定を行い、その結果も示した。

Q1～Q6は身体的な苦痛、恐怖的感情に関する項目であった。この項目に対しての回答の平均点が高くなると否定的な反応となる。例えば柔道は危険であるという質問項目で高くなると授業後に危険でないというイメージが変わったことを示す。

Q7とQ8は好感的感情に関する項目であった。この項目に対しての回答の平均点が低くなると肯定的な反応となり、より好感的になったことを示す。

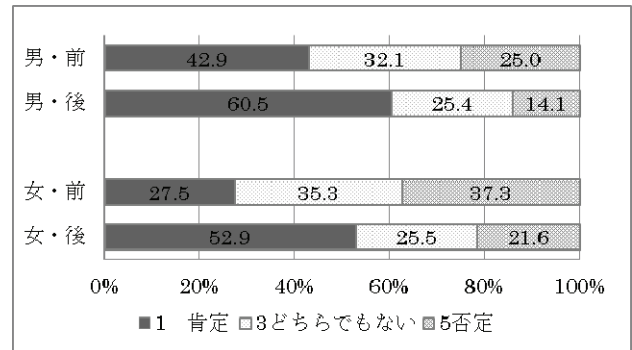


図-8 柔道は面白い

### a) Q1 柔道は危険なスポーツと思うについて

男子は、授業前平均  $3.0 \pm 1.32$  で授業後平均  $3.3 \pm 1.33$  で授業後に 5%で有意に高い得点であった ( $t = -6.16, p < 0.05$ )。女子では、授業前平均  $3.1 \pm 1.25$  で授業後平均  $3.4 \pm 1.23$  で授業後に高い傾向がみられた ( $t = -1.72, p < 0.10$ )。

以上のことから男女ともに授業後に危なくないというイメージに変化した。

### b) Q2 柔道は怖いスポーツと思うについて

男子は、授業前は平均  $3.2 \pm 1.32$  で授業後平均  $3.6 \pm 1.32$  ( $t = -8.31, p < 0.05$ )、女子では、授業前平均  $2.9 \pm 1.40$  で授業後平均  $3.5 \pm 1.21$  ( $t = -3.96, p < 0.05$ )、男女ともに授業後に有意に高い得点であった。

以上のことから、授業後に男女ともに怖くないというイメージに変化した。

### c) Q3 柔道は痛いスポーツと思うについて

男子は、授業前平均  $2.5 \pm 1.29$  で授業後平均  $2.9 \pm 1.30$  ( $t = -9.77, p < 0.05$ )、女子では、授業前平均  $2.5 \pm 1.29$  で授業後平均  $3.2 \pm 1.21$  ( $t = -6.31, p < 0.05$ )、男女ともに授業後に有意に高い得点であった。

以上のことから、授業後に男女ともに痛くないというイメージに変化した。

### d) Q4 柔道は怪我が多いスポーツと思うについて

男子は、授業前平均  $2.6 \pm 1.25$  で授業後平均  $3.1 \pm 1.27$  ( $t = -10.43, p < 0.05$ )、女子では、授業前平均  $2.8 \pm 1.25$  で授業後平均  $3.4 \pm 1.12$  ( $t = -4.72, p < 0.05$ )、男女ともに授業後に有意に高い得点であった。

以上のことから、授業後に男女ともに怪我が多くないというイメージに変化した。

### e) Q5 柔道は苦しいスポーツと思うについて

男子は、授業前平均  $3.1 \pm 1.29$  で授業後平均  $3.4 \pm 1.26$  ( $t = -6.37, p < 0.05$ )、女子では、授業前平均  $3.2 \pm 1.20$  で授業後平均  $3.6 \pm 1.12$  ( $t = -4.04, p < 0.05$ )、男女ともに授業後に有意に高い得点であった。

以上のことから、授業後に男女ともに苦しくないというイメージに変化した。

### f) Q6 柔道は激しいスポーツと思うについて

表-3 授業前後の柔道のイメージ点の比較

No.	質問項目	性別	n	授業前	授業後	t 値	p 値	
Q1	柔道は「危険」	男子	645	3.0±1.32	3.3±1.33	-6.16	0.000	*
		女子	102	3.1±1.25	3.4±1.23	-1.72	0.089	†
Q2	柔道は「怖い」	男子	645	3.2±1.32	3.6±1.32	-8.31	0.000	*
		女子	102	2.9±1.40	3.5±1.21	-3.96	0.000	*
Q3	柔道は「痛い」	男子	645	2.5±1.29	2.9±1.30	-9.77	0.000	*
		女子	102	2.5±1.29	3.2±1.21	-6.31	0.000	*
Q4	柔道は「怪我が多い」	男子	645	2.6±1.25	3.1±1.27	-10.43	0.000	*
		女子	102	2.8±1.25	3.4±1.12	-4.72	0.000	*
Q5	柔道は「苦しい」	男子	645	3.1±1.29	3.4±1.26	-6.37	0.000	*
		女子	102	3.2±1.20	3.6±1.12	-4.04	0.000	*
Q6	柔道は「激しい」	男子	645	2.1±1.15	2.2±1.15	-0.93	0.352	n.s.
		女子	102	2.4±1.23	2.6±1.26	-1.10	0.272	n.s.
Q7	柔道は「楽しい」	男子	645	2.8±1.17	2.3±1.13	11.88	0.000	*
		女子	102	3.2±1.11	2.5±1.21	5.96	0.000	*
Q8	柔道は「面白い」	男子	645	2.8±1.20	2.3±1.12	11.09	0.000	*
		女子	102	3.1±1.15	2.6±1.22	4.96	0.000	*

男子は、授業前平均 2.1±1.15 で授業後平均 2.2±1.15 ( $t=-0.93$ ,  $p>0.05$ ), 女子では、授業前平均 2.4±1.23 で授業後平均 2.6±1.26 ( $t=-1.10$ ,  $p>0.05$ ), 男女ともに授業後に有意な差はみられなかった。

以上のことから、授業後に男女ともに激しいというイメージは変化しなかった。

#### g) Q7 柔道は楽しいスポーツと思うについて

男子は、授業前平均 2.8±1.17 で授業後平均 2.3±1.13 ( $t=11.88$ ,  $p<0.05$ ), 女子では、授業前平均 3.2±1.11 で授業後平均 2.5±1.21 ( $t=5.96$ ,  $p<0.05$ ), 男女ともに授業後に有意に低い得点であった。

以上のことから、授業後に男女ともに楽しいというイメージに変化した。

#### h) Q8 柔道は面白いスポーツと思うについて

男子は、授業前平均 2.8±1.20 で授業後平均 2.3±1.12 ( $t=11.09$ ,  $p<0.05$ ), 女子では、授業前平均 3.1±1.15 で授業後平均 2.6±1.22 ( $t=4.96$ ,  $p<0.05$ ), 男女ともに授業後に有意に低い得点であった。

以上のことから、授業後に男女ともに面白いというイメージに変化した。

## 4. 考察

本研究では授業前に柔道は、「痛い」「怪我が多い」といったマイナスイメージに対して、それぞれ「痛い」が男子 63.4%, 女子 64.7%, 「怪我が多い」が男子 51.6%, 女子 50.6%で多くみられた。

生田ら (2003) の研究でも授業前アンケートで柔道のイメージに「痛い」という回答があり、石川ら (2011) の研究でも「苦痛」「危険」といったマイナスイメージが多くみられたと報告されている。本研究と同様に痛いといったマイナスのイメージが強いことがわかった。

授業後では「痛い」の回答が男子 63.4%から 42.6%, 女子 64.7%から 33.3%に減少した。柔道の授業を重ねていくことで面白さ、楽しさの項目が高くなり、痛さの項目が低減したことがみとれる。これは生田ら (2003) の報告でも「授業を受けたことで柔道は面白いというイメージが大きくなった。」とある。

本研究では、「面白い」「楽しい」の項目に対して、「面白い」が男子 42.9%から 60.5%, 女子 27.5%から 52.9%, 「楽しい」が男子 41.4%から 60.6%, 女子 24.5%から 57.8%へ授業後に高くなり、これは授業が進むにつれて柔道衣の着方、礼法、受け身といった基本動作から立技、投技、寝技、自由練習といった柔道の楽しさや特性を感じることができたことがうかがえる。自由練習を重ねていくことで投げられるの攻防に次第に慣れていったことから恐怖心が薄れ、危険なイメージが減少したと考えられる。

石川ら (2011) は、乱取りが出来るようになり、相手を投げたり、抑えたりするといった柔道の面白さを十分に感じられるような動きを経験できるようになったことによって、肯定的なイメージの変化がもたらされたと報告している。

また、「激しい」の項目では大きな変化がみられなかった。授業前のイメージでは柔道は激しいと感じている割合が男子 73.0%, 女子 58.8%と高かったが、授業後でも激し

いイメージの割合は男子 69.9%, 女子 52.0%で大きな変化はなかった。授業前は、柔道の攻防の中で組み合い、相手の身体を直接攻撃していくような状況や、不安定な状態で技をかけ、投げられた際に宙に舞い、畳に落ち、衝撃を受けるといったイメージからの影響もあると思われる。授業後も、自由練習を行うことで技の多様性や相手との攻防の難しさから激しい項目の変化がみられなかったと思われる。

笠谷 (2013) は柔道について明るく楽しそうなイメージもあるが専門的に取り組めば当然厳しさというものがあることも高校生は認識しているのではないかと報告している。

本研究における柔道のイメージは、楽しい、面白いといった好感的なイメージを持ちながらも、激しいというイメージを持ち合わせていることがうかがえる。

石川ら (2011) の研究でも、柔道は楽しいけれども難しく、そして苦痛な側面もあるが、精神的な価値を持つものとしてイメージされていると報告がある。中学、高校、大学生を対象とした研究では、授業後に激しい面をもちながらも、一方で、楽しく、面白いイメージを持ち合わせているとの報告がされているが、本研究でも高専生の柔道のイメージは、楽しい、面白いといったイメージと激しいというイメージをもっており、類似していた結果であった。授業後には好感的に感じる者が増加し、恐ろしく感じる者は減少した。すなわち、授業後に柔道に対して好意的になったといえる。

しかしながら、柔道は激しいスポーツであるということの認識は持っているようである。このように高専生の柔道のイメージを明らかにすることは、今後の体育授業をより良いものにするための一助となるだろう。

## 5. まとめ

高専生の授業前後の柔道に対するイメージの変化をみるために質問紙を用いてアンケート調査を行った。

授業後に8つの質問項目中男子7項目、女子6項目において有意な変化がみられた。男女ともに柔道の授業を経験することによって、「楽しい」「面白い」と柔道に好感を持つ者が増え、「痛い」「怖い」と恐怖を感じる者が減った。「激しい」の項目には有意差がみられず、柔道の授業経験後も激しいというイメージは変化していなかった。

## 参考文献

- 濱田初幸, 前阪茂樹, 川西正志, 安道太軌, 北村尚浩 (2011): 体育専攻学生が期待する中学校における武道必修化による教育効果: 武道を専門とする学生に着目して, 鹿屋体育大学学術研究紀要, 43, 1-9
- 石川美久, 遠藤知里, 小田 梓, 坂本道人, 鍋山隆弘, 小俣幸嗣 (2011): 共通体育柔道における大学生の武道に対するイメージ変化, 大学体育研究, 33, 11-20
- 生田祐介, 村松常司, 森勇示, 金子修己, 金子恵一, 大河内伸之 (2003): 高校生における柔道授業に関する意識の研究, 愛知教育大学保健体育講座研究紀要, 28, 27-36
- 笠谷和弘 (2013): 大阪中高体連柔道部女子部員アンケート結果報告, 柔道科学研究, 第18号, 30-37
- 文部科学省 (2008): 中学校指導要領解説, 保健体育編
- 尾形敬史 (1978): 柔道に対する意識の研究 (第一報), 中学生を対象として, 茨城大学教育学部紀要, 28号, 35-56
- 尾形敬史 (2009): 小学校における体育授業への柔道導入の実践研究, 講道館柔道科学研究会紀要, 第12輯, 147-170 (2015.9.30受付)